

中町 美香子

准教授

研究業績

2026年4月1日現在

著書・論文等の区分	著書・論文等の名称、発行所・発表雑誌・学会等の名称、共著の場合の编者・著者名、該当頁数	発行・発表年月
著書（共）	「『安祥寺資財帳』の成立」、『皇太后の山寺—山科安祥寺の創建と古代山林寺院』、柳原出版（上原真人、梶川敏夫ほか共著）、213～235頁	2007年3月
著書（共）	『安祥寺資財帳』（京都大学史料叢書）、思文閣出版（鎌田元一共著）、1～167頁	2010年7月
著書（共）	「『清癩眼抄』—平安末期の配流と火災」、『中世日記の世界』、ミネルヴァ書房（近藤好和、松蘭齊ほか共著）、74～85頁	2017年4月
著書（共）	京都大学文学部日本史研究室編『兵範記四・範国記・知信記』（京都大学史料叢書）思文閣出版、（翻刻・編集）	2020年5月
著書（共）	「藤原順子—摂関政治萌芽期の母后—」、新古代史の会編『人物で学ぶ日本古代史3 平安時代編』吉川弘文館、57～60頁	2022年12月
論文（単）	「平安時代の皇太子在所と宮都」、『史林』第85巻第4号、76～109頁	2002年7月
論文（単）	「平安時代中後期の里内裏空間」、『史林』第88巻第4号、70～99頁	2005年7月
論文（単）	「平安時代の后宮・皇太子の啓陣」、『ヒストリア』第204号、1～24頁	2007年3月
論文（単）	「平安宮諸官衙の変容—諸官衙修造から—」、京都大学大学院文学研究科21世紀COEプログラム「グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成」第5回報告書『人文知の新たな総合に向けて』、31～58頁	2007年3月
論文（単）	「東山御文庫蔵『移行外記政於官庁儀式』、東京大学史料編纂所研究成果報告2008-1『目録学の構築と古典学の再生—天皇家・公家文庫の実態復原と伝統的知識体系の解明—』、396～407頁	2009年5月
論文（単）	「三条西家旧蔵『禅中記抄』」、『禁裏・公家文庫研究』第4輯、思文閣出版、117～145頁	2012年3月
論文（単）	「検非違使官人の日記—『清癩眼抄』に見る焼亡奏と「三町」—」、『日記・古記録の世界』、思文閣出版、743～751頁	2015年3月
論文（単）	「平安時代の中宮職印に関する覚書」、『花園史学』第44号、41～60頁	2024年2月

その他（単）	「新刊紹介『院政期の内裏・大内裏と院御所』」、『日本史研究』第542号、80～81頁	2007年10月
その他（共）	「安祥寺資財帳―校訂・釈読」、京都大学大学院文学研究科21世紀COEプログラム「グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成」成果報告書『安祥寺の研究Ⅰ―京都市山科区所在の平安時代初期の山林寺院―』（鎌田元一共著）、31～76頁	2004年3月
その他（単）	（コラム）「平安京の「上わたり」「下わたり」」、倉本一宏・小峯和明・古橋信孝編『説話の形成と周縁 古代篇』、臨川書店	2019年5月
その他（単）	「説話に史実をさぐる」、『花園史学』第42号、53～57頁	2022年2月
口頭発表（単）	「平安宮諸官衙の変転―官舎の顛倒と修造から―」、京都大学文学部日本史学研究室読史会大会	2004年11月
口頭発表（単）	『清癩眼抄』にみる空間意識―「内裏三町」について―、国際日本文化センター共同研究「日記の総合的研究」研究会	2010年10月
口頭発表（単）	『今昔物語集』巻第二十七第九話の史実性をめぐって」、国際日本文化センター共同研究「説話文学と歴史史料の間に」研究会	2016年3月
口頭発表（単）	「『今昔物語集』の平安京と「上わたり」「下わたり」、国際日本文化センター共同研究「説話文学と歴史史料の間に」研究会	2018年10月
口頭発表（単）	「平安京の空間秩序」、花園大学史学会大会	2019年11月
口頭発表（単）	「平安時代の中宮職」、花園大学史学会大会	2024年11月
講演	「平安貴族社会と平安京」、2023年度京カレッジ大学リレー講座	2023年9月